みんなの広場

ところざわの文化財 ⑨ 歴史再発見

木村・徳田両中尉墜落地

日本で最初の飛行場が誕生した所沢は、「航空発祥の地」として知られていますが、航空界初の犠牲者が出たのもこの所沢の地でした。

大正２年（1913）３月28日、陸軍省は航空機の重要性を説明するため、貴族院・衆議院の両院議員を対象に観覧飛行を行いました。当時、陸軍砲兵中尉だった木村鈴四郎は、プレリオ式飛行機で同日午前９時50分、所沢飛行場から青山錬兵場（現在の明治神宮外苑の一部）へ飛び、航空術を披露しました。帰途は陸軍歩兵中尉の徳田金一が同乗して午前11時36分、所沢へ向かい出発しました。

ところが、午前11時59分、所沢飛行場北東約1,000mの地点で突風に襲われ、左の翼が壊れ松井村大字下新井字柿の木台（現在の下新井／所沢聖地霊園内）に墜落し、両中尉は死亡しました。明治43年（1910）、日野熊蔵・徳川好敏両大尉による日本初の飛行以来、航空界最初の犠牲者を出した事故について、当時の新聞はその様子を大々的に報じました。

事故後、両中尉の霊を慰めるため記念塔を建てようとする運動がおこりました。東京に本社のあった、やまと新聞社が主催し、松井村の在郷軍人分会や青年会の協力により墜落現場の土地の購入と記念塔が建設されました。そして一周忌にあたる大正３年（1914）３月28日に銅像記念塔の除幕式が行われました。

その後、記念塔は関東大震災による破損・修理、所沢駅頭への移転など数々の変遷を経て、昭和56年(1981)に航空記念公園内に移され現在に至ります。一方、墜落地には昭和４年（1929）に「木村・徳田両中尉殉職記念碑」が建てられました。市では、この受難の記録を後世に伝えるため、墜落地を文化財に指定しています。

▲殉職記念碑

街の写真館

▶幼年消防クラブの泉町保育園、双実保育園の園児による行進も行われた消防出初式。（撮影／市民カメラマン・西山元博）1月7日㈰／所沢航空記念公園

▲大人の仲間入りをする喜びと責任を感じた「成人のつどい」。所沢市から3,626人の新成人が誕生しました。（撮影／市民カメラマン・中村　仁）1月８日㈷／松井公民館

◀ずらっと並んだ約200本の華やかな絵柄の羽子板に、思わず見入る「羽子板市」。12月26日㈫／井筒屋町造商店

一口メモ 防犯

～『振り込め詐欺』・『架空請求詐欺』に注意～

「税金の還付金があるので、あなたの口座に振り込みます。銀行に行ってください」などと電話で税務署や国税局職員を名のり、指定した口座に現金を振り込ませる事件が多発しています。

また、存在しない住所や会社名でハガキによる督促状（請求書）を送りつけて、支払いを要求する「架空請求詐欺」も発生しています。

現金の振り込みを求める電話や、心当たりのない利用料金などを請求する郵便物には、注意をしてください。

★★被害にあわないために★★

- 現金の振り込みを急がせる電話は、「振り込め詐欺」を疑う
- おかしいと感じたら振り込む前に家族や警察、金融機関に相談する
- 不審な郵便物に書かれた連絡先に、安易に電話をしない
- 怪しい電話には、勤務先や学校名などの情報を話さない

問い合わせ　防犯対策室（☎2998-9090・FAX2996-0015）

はつらつ野老（ところ）っ子

聴いてくださる方に幸せな時間を…

JULEPS・佐藤　めぐみさん（東所沢在住）

そのメロディーは、冬の陽だまりにいるような心地よさを感じさせてくれます。聴く人の気持ちを、やさしく元気にしてくれるコーラスグループ、それがＪＵＬＥＰＳ（ジュレップス）です。

男性ヴォーカル３人と女性ピアニストの４人グループ。個性あふれる歌声と、その歌声を包み込むようなピアノの音色とが絶妙なハーモニーを奏でます。メンバーは皆20代と若く、全員が所沢市在住です。特に紅一点のピアニスト佐藤めぐみさん（ニックネーム：めぐ）は、生まれも育ちも所沢、安松中学校卒業の生っ粋の“ところっこ”です。「当初は楽器を演奏できない男３人のアカペラで活動していたけど、限界を感じてきました。そこに加わってくれた『めぐ』は、まさに救世主でした」とリーダーの松山さんは話します。

佐藤さんは３歳からピアノを始め、中学校まではピアノ一筋。高校では軽音楽部でベース、ドラム、そしてギターも演奏。プロペ通りでライブをやっていたという、とても活発な女性です。

そんな佐藤さんは「所沢は自然も豊富に残っていて、和やかな街の雰囲気も大好きです」と郷土の魅力を語り、「音楽を通じて、ほのぼのタウン所沢のイメージアップのお手伝いができたらうれしいです」と、地元での音楽活動にも意欲的です。

コンサートに来る方は、20～40代の女性を中心に小・中学生から親子連れまでと年代層の幅は広いそうです。「ステージでは世代間の架け橋になれるような歌や曲の演奏と、やさしい雰囲気を大切にして、聴いてくださる方に幸せな時間を過ごしてもらうように心がけています」と、ファンへの思いを語ります。

ＣＤ『蕾～つぼみ～』の発表につづき、昨年はミューズで800席のホールを満席にしての単独コンサートを開催。市民フェスティバル、学校、福祉施設でも演奏しました。現在は月２回のチャリティーライブを所沢駅前ワルツビルで開催中です。友人の結婚式で歌って、人のために歌う喜びを知ることからはじまったというＪＵＬＥＰＳ。

この春、その蕾は希望に満ちて大きく花開くことでしょう。

所沢駅前イルミネーション点灯式にて

撮影：市民カメラマン・村田ひろこ

レッツボランティア

【所沢インターナショナルファミリー（TIF）】

～外国人との交流を通じて共生をめざす～

『所沢インターナショナルファミリー（ＴＩＦ）』は、所沢を中心に外国の人たちと市民レベルの交流を行い、地域の中で協力しあってお互いの理解を深めるさまざまな活動に取り組んでいます。

活動のひとつは、毎週２回開催している外国人の日本語学習への支援です。昨年度は、延べ約1,650人を超える外国人の方々の学習を支援しました。また、会員以外の方も参加できる、市民の国際理解を深めるための学習会や講演会の開催、毎週１回開催する「みんなのサロン」など、さまざまな形の交流活動を展開しています。

ＴＩＦでは「気楽に、気長に、気持ちよく」をモットーに、「外国人も日本人も同じこの所沢で共に生きる市民」であるという認識のもと活動しています。

市内には多くの外国人が暮らしており、日本語学習など、外国人との交流に取り組むボランティアグループがほかにもあります。

国際理解は、お互いに知り合うことから始まります。皆さんも活動を通じて国際理解を深めてみませんか？

日本語学習会のようす

今回ご紹介したグループについて、またその他ボランティア活動に関心のある方は、社会福祉協議会までお問い合わせください。

問い合わせ　所沢市社会福祉協議会（☎2925-0041・FAX2925-0040）

誰でもエッセイ

テーマ　冬休み

冬休みの帰省

和ヶ原・山ノ井　義治

故郷への帰省はいつも夏休みにしていた。夏休みの方が明るく開放的で、山や海で楽しく遊べるし、冬休みは雪などの交通関係のトラブルが多かったからである。しかし、都合で冬休みに帰省したある年、夏休みでは分からなかった父母の家庭の事情がよく分かった。

まず、キッチンの暖房が不備で、母は寒い思いで炊事をしていたらしい。それから、外出がたいへんな冬の、唯一の娯楽であるテレビの映りが悪いのにも気が付いた。また、冬は体力が弱り、風邪をこじらせたり血圧が高くなったりするので、体調の変化がよく分かる。もっと早くから気が付けばよかったと後悔し、それからは毎年、冬休みの帰省を心掛けた。

祖父との思い出

下富・細渕　春夫

昭和30年代の小学生のころの冬休みは、夏休みと違い短かったが、その分宿題も少なく、これから来る正月にわくわくした。今の子どもたちと違い、よく家の手伝いもした。ふろに使うまきを運んだり、畑に野菜を採りに行ったり……。

ある年の冬休みの寒い日、その日なぜか祖父と2人きりだった。夕方になり2人でふろを焚いた。なぜかふだんあまり話をしない祖父と気が合い2人で入った。竹トンボや野球のバットも作ってくれた祖父は、私が中学生のときに他界した。当たり前の様にいた、ちょっとこわい祖父や、やさしい祖母にもっとおもいやりのある言葉をかければよかった。なつかしい思い出と共に時は過ぎてゆく。

冬休み

松郷・島村　紀一郎

小学生の下校時のパトロール活動に参加して間もなく1年になります。

用事があるときや体調不良などの際には休むこともありますが、それ以外は出来るだけ参加するように心掛けて頑張っています。

年末年始は、12月22日から1月8日までが小学校の冬休み期間となりました。仲よくなった子どもたちと会えなくなり、ちょっと淋しい気がしましたが、今年の初登校日には元気な姿を見ることができ、とてもうれしく思いました。

子どもたちの冬休み期間は、私たち熟年ボランティアにとっても、しばらくぶりの冬休みとなりました。

天上の青

若狭・井上　美恵子

私は、朝顔の中でも特に西洋朝顔が大好き。わが家に朝顔が咲くようになって10年近くになる。最初の出会いは秋、住宅地の庭の高く盛り上がった木にからみついて咲いていた。花が大きく色は吸い込まれそうな淡いブルー、「今ごろ、なぜ?」と思いながら見ていた。

少しして正体がわかった。西洋朝顔で名前は「ヘブンリーブルー」（天上の青）、ぴったりの名前だ。

わが家の前は小学校の通学路。「朝顔さん、おはよう」「オッ、朝顔が咲いているゾ！」と子どもたちの声を耳にすると、育ての親はうれしい。

晩秋になると開花が遅くなり、昨日咲いた花もしおれずに見られる。花の数が私の年齢に達することもある。でも、12月を迎えると寒さに耐えられなくなり冬の眠りに入って行く。

次の秋にまた会いましょう。天国へ誘ってくれるような花を咲かせてください。

次回のテーマは「春を感じるとき」です

▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「春を感じるとき」▶締め切りは２月７日㈬必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係◎Ｅメール（アドレスkouhougenkou@city.tokorozawa.saitama.jp）も可。